



市民ライターがまちの話題をお届け!! /
広報ひだまち特派員レポート
(特派員：水樹 華・岡田 直樹)

3/2 賞 鈴木あぐりさん 祝百歳！万歳！ 賞状やお祝いの花束などを贈呈



神岡町麻生野の鈴木あぐりさんが100歳を迎えられ、市民福祉部の藤井弘史部長らが訪問して賞状やお祝いの花束、褒賞金を鈴木さんに手渡しました。

大正10年2月27日生まれの鈴木さんは、古川町太江から20歳で嫁がれ、飛行機を作る会社に勤めることになった旦那さんと岐阜での生活を始めたそうです。

その後、空襲にあうなど戦争が激しくなり、飛騨市に戻られた時に終戦となりました。鈴木さんは、ラジオから流れる天皇陛下のお言葉を聞きながら涙を流されたそうで、「いろんな事があったわ…」としみじみ語られていました。

また、驚くことに90歳まで車の運転をして買い物に行かれていたそうです。

鈴木さんは「こんなふうにしてもらってありがとうございます」とはっきりとお礼の言葉を述べられ、お祝いの花束が贈られると涙を流して喜ばれていました。



3/3 教 飛騨市教育実践研究論文表彰式 教現場での取り組みと成果を未来へつなぐ

令和2年度の飛騨市教育実践研究論文表彰式が3月3日、飛騨市役所で開かれました。市内の小中学校の教職員が、その資質向上を図ることを目的に、市学習習慣確立指針に基づいた授業改善などに取り組んだ実践を論文にまとめたもの。選ばれた優秀な論文を毎年、表彰しています。

今回は17の応募があり、優秀賞に河合小学校の柿下冬子教諭、古川中学校の谷口正英教諭の論文が選ばれ、表彰式では入賞者の皆さんに沖畑康子教育長から表彰状が贈られました。

あいさつに立った沖畑康子教育長は「論文にまとめることで、これまでやってきた教育の目標や大事な点がはっきりしたのは。振り返ることは次のステップへと進むのに大事なこと」などと話し、日ごろの労をねぎらいました。



3/10 学 古川小と台湾・新港国民小の児童がwebで英語交流授業 学んだ英語を使って自己紹介や質問など

市と友好都市提携を結んでいる台湾・新港郷の新港国民小学校の児童と、古川小学校6年生児童がインターネット中継で、英語交流授業を行いました。1年間学んだ英語を生かして会話をし、さらに友好を深めるのがねらい。

当日は感染防止対策としてクラスごとに分かれて交流を実施。児童らは自己紹介をした後、「どんなスポーツが好きですか」と質問したり、「台湾に行きたいですか」の質問に「はい、行きたいです」と答えました。新港国民小の児童がサプライズでチェロの演奏を披露したりすると、古川小の児童は盛んに拍手を送りました。

質問を終えた加藤芳浩さんは「国によって考えの違いがあって、生きていく上ではそうした違いをしっかりと分かって行動することが大切だと分かりました」と授業の感想を話していました。



3/10 皆 「楽団ニューコメツ」が岐阜県芸術文化顕彰受賞 皆さんに笑顔を与えられる演奏をしたい

令和2年度の岐阜県芸術文化顕彰に河合町のアマチュアバンド「楽団ニューコメツ」が受賞されました。結成以来74年にわたり、演奏活動を通じて地域文化へ貢献したことを称えるものです。

10日には尾崎忠夫団長と原博明副団長が市役所を訪れ、都竹市長に受賞を報告。都竹市長は「名誉ある賞です。次の若い人を入れてもらい、ぜひ長く続けてください」とエールを送りました。

同団体はこれまで河合小学校の運動会をはじめ市内のさまざまなイベント、福祉施設慰問などで生演奏を披露し、地域を盛り上げてきました。現在のメンバーは、40代～80代の10人。尾崎団長は「最高の賞をいただきました。これからも皆さんに笑顔を与えられるような演奏をしたい」と意気込みを話していました。



3/11 地域医療としての活躍を期待

4月から岐阜大学医学部「地域医療コース」に進学される古川町出身の平瀬みきさんの激励会を市役所で行いました。

地域医療コースは、地域医療の医師不足を解消するために創設された奨学金制度で、平瀬さんは将来、飛騨地域での医師としての活躍が期待されます。

平瀬さんは「今は、循環器内科や産婦人科医療にも興味がある」と、4月からの学生生活に積極的に取り組む姿勢を話しました。

都竹市長は「将来、医師として地域の医療を支えていただけるのをとても楽しみにしている」。飛騨市民病院の黒木院長は「地域の特性や患者の周辺環境などを踏まえ幅広い視野で患者を診る総合診療にも目を向け、地域に求められる医師を目指してほしい」と激励しました。



3/17 賞状やお祝いの花束などを贈呈

大正10年3月17日生まれ。旧上宝村から嫁がれ、48歳で夫を亡くし、女手ひとつ、保険の外交員をして娘さん2人を育てられました。車もなく、歩いて回っていたせいか足腰は元気で、目の病気になった67歳頃まで続けられたそうです。

娘さん2人が嫁がれてからは89歳まで一人暮らし。「母の作る天ぷらやコロッケと一緒に食べたのもいい思い出」と娘さん。

その後、富山の長女さん宅へ7年ほど行かれました。脳梗塞のため現在は車椅子生活で、施設に入所中ですが、2週間に1回の娘さんからの手紙や孫の写真を楽しみにしているそうです。

せつさんは「こんなにして頂き、ありがとうございます！」と涙ながらに、はっきりとした口調で感謝の言葉を述べられました。



3/24 障がいのある人の雇用を支援

障がい者の雇用を支援している企業を認定する「飛騨市障がい者就労施設応援企業」制度の認定式が市役所で行われ、都竹市長が認定書を贈りました。

市内の障がい者就労施設から一定額以上の物品を購入したり、業務委託を行っている企業を支援することで、障がい者が就労したり生産活動をする機会を継続的に確保し、施設の経営基盤の安定化を図ることを目的としたもので、購入費や委託金額の1%を奨励金として企業へ交付しています。今年度は1社が増えて6社が認定されました。

認定企業を代表して株式会社古城コンポの川尻哲男代表取締役が「今後も取り組みを維持、拡大していく中で、この地域の発展にも寄与できれば」とあいさつ。都竹市長は「温かい輪を皆さんの力で支え、広げて」と、謝辞を述べました。



3/25 みんなでドラゴンズを応援してね

次世代を担う地元の子どもらを応援しようと、ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社と中日ドラゴンズが、市内の卒園児全員に「オリジナルドラゴンズキャップ」と、両社が共同開発した飲料「ドラゴンズブルーサイダー」をプレゼントしました。今年度の市内の卒園児は7園で158人です。

また、コロナ禍で大変な思いをしている小学生を元気づけ、地元球団である中日ドラゴンズと一緒に応援してもらおうと、市内の小学生全員（計1064人）にも「ドラゴンズブルーサイダー」を贈りました。

3月25日には宮城保育園で贈呈式が行われました。卒園児18人を代表して岡山晃太君が帽子、鈴村侑莉ちゃんがサイダーをそれぞれ受け取りました。ゆるキャラ「レモン忍者レモンじゃ」も登場し、園児は笑顔で交流しました。





飛驒市

Facebook 公式アカウント

飛驒市役所



まちの話題に掲載しきれないイベントや写真は市の公式 Facebook で配信中。

まちの話題
いろいろ

3/26

福祉とまちづくりの拠点をめざす

飛驒市多機能型障がい者支援センターが神岡町山田に完成し、竣工式が行われました。広々とした食堂や作業室、短期入所室の他ふれあいスペースなどが備えられ、日中一時支援や生活介護、就労継続支援B型などのサービスが提供されます。

式典には布保正也県議や澤史朗市議会議長など来賓や関係者など約20人が出席。施主である都竹市長が謝辞を述べ、「地域の皆さんが利用される場も共存している地域共生型の施設。運営いただく皆さんには、ていねいで温かいサービスをお願いしたい」とあいさつしました。

指定管理者であるNPO法人飛驒市障がいのある人を支える会の奈木桂子理事長は「福祉だけでなく、まちづくりの拠点となるよう活動に邁進し、市を盛り上げていけるような場をつくりたい」と意欲を述べられました。



3/26

日本郵便株式会社と飛驒市が包括連携協定を締結 疎地の郵便局で日用品販売や『いきいき券』交付

日本郵便株式会社と飛驒市が包括連携協定を結びました。3月26日に締結式があり、同社の山崎雅明東海支社長と都竹市長が協定書にサインを交わしました。

郵便局のネットワークを活用することで、過疎地域に住む高齢者の生活支援を図ろうというもの。今後、神岡町の東茂住郵便局で日用品や食品などを店頭販売したりカタログ販売などを実施。また、東茂住郵便局と宮川町の打保郵便局で市が発行する『いきいき券』や健康増進器具などの交付を実施するなど、モデル事業を試験的に実施していきます。

山崎支社長は「全国的にも珍しい協定。取り組みが全国に広がって、地域の皆さんから『郵便局があって良かった』とおっしゃっていただければ、店舗網も守っていけると思う」と話されました。



3/28

東北大学ニュートリノ科学研究センターと連携協力協定を締結 東北大学の研究成果の広報や環境整備を行う

神岡鉱山の中にある「KamLAND（カムランド）」でニュートリノ研究を行っている東北大学ニュートリノ科学研究センター（仙台市）と飛驒市との間で3月28日、研究成果の発信などに関する連携協定を締結しました。

この協定は、同センターの研究成果の発表や研究環境の整備、人材育成などで、市と同センターが相互に協力するものです。また4月から、ふるさと納税の寄付項目に同センターへの寄付を追加し、研究を下支えしていきます。

締結式は神岡町公民館で行われ、都竹市長が「市民の皆さんにカムランドの研究を理解いただくと共に、地域の誇りとして世の中に発信していきたい」とあいさつ。井上邦雄センター長は「市の心強い支援に期待し、連携が深まるよう頑張りたい」と語り、協定書を交わしました。



3/29

融 東海労働金庫と飛驒市社会福祉協議会、市が連携協定 資体制を整備し、多重債務苦の防止はかる

東海労働金庫と飛驒市社会福祉協議会、市は「飛驒市民の生計見直しのための資金貸付事業連携に関する協定書」の締結式を行いました。

生活する上で一時的に資金が必要となる市民への融資体制を整えることが目的。安易に高利な借入れをして多重債務に陥る事態を防止したり、新たな借入れが困難な市民に対し、生計を見直す助言や金利の低い融資に一本化する手助けを行うなど、3者が一体となって市民生活をサポートします。

東海労金高山支店の深見昌宏支店長は「市民の皆さんのため、温かい気持ちを持って『高い金利で借りては駄目ですよ』などと言いつけていきたい」とあいさつ。市社協の竹本一久会長は「施策を有効に活用し、市民の皆さんに幸せになっていたいたら」と話されました。

